

健康登山48:自然歩道26 (石山寺～湖南アルプス登山口)

| | | | |
|--------|--|--------------------------|--|
| コース | 京阪石山寺駅 3.6km/52 南郷洗堰 1.7km/26 石井橋 2.1km/32 アルプス登山口 1.0km/19 富川道分岐 1.1km/36 矢筈ヶ岳分岐 1.8km/61 矢筈ヶ岳 2.4/58 大谷河原 1.1km/29 笹間ヶ岳 2.3km/55 上関バス停 | | |
| 水平距離 | 17.1km | 断面図 縦軸：高度m 横軸：距離km |  |
| 水平換算距離 | 18.4km | | |
| 累計高低差 | 登り696m、下り695m | | |
| 標準歩行時間 | 6:08 | | |
| 実績歩行時間 | 6:56 | | |



山行報告

山行日 2009・6・4(金) 天候 曇り 参加者 6名

京阪石山寺駅9:04 南郷洗堰9:53 石井橋10:28 アルプス登山口11:00 富川道分岐
 行動 11:19 昼食11:44~12:18 矢筈ヶ岳分岐12:26 矢筈ヶ岳13:40 矢筈ヶ岳分岐14:
 28 大谷河原14:52 笹間ヶ岳15:46 上関バス停17:00 石山駅17:45

記録

予報では曇り時々雨だったが、終日曇りで薄日もさず天候で歩きやすかった。
 東海自然歩道は石山寺で山ノ辺ルートと本線ルートに分かれる。今回は本線ルート後半の出発点でもある。午前中は東海自然歩道を石山寺からアルプス登山口まで歩き、午後は周辺の山として矢筈ヶ岳と笹間ヶ岳に登って上関バス停に下山した。
 東海自然歩道のガイドブックでは石山寺があるのでおすすめ度 となっているが、実際は車に気をつけながらの街中歩きである。南郷洗堰を渡り、大戸川の堤防を1km余り歩くと石井橋に着く、ここから天神川沿いに枝集落に向かって南下する。この辺りからは車も少なく、正面に湖南アルプスの山々が眺められるので気分的には救われる。湖南アルプス登山口まで2時間休みなく歩いて、ここでひと休み、前半部の終わりである。
 アルプス登山口から1km先に富川道分岐の道標があり、ここから山道になる。湖南アルプスらしい岩の露出した沢筋を1km程登ると御仏堰堤があり、すぐ上に矢筈ヶ岳の分岐がある。矢筈ヶ岳562mへの道もはっきりして歩いて歩きやすい。山頂直下には60mの急登があり、イワウチワの群落も見られる。山頂からの展望はない。分岐から往復するのに2時間かかった。分岐点から池を二つ過ぎると大谷河原に出るが水は伏流になっていた。河原から尾根道に戻り、1時間ほどで笹間ヶ岳に着いた。山頂にある大岩の上から見下ろす琵琶湖方面の展望は圧巻である。ここでしばらく景色を見ながら過ごした。
 山頂から林道までの高度差100mの急坂を慎重に下り、上関バス停へ向かった。富川道～笹間ヶ岳～上関のルートには東海自然歩道の道標があった。自然歩道のサブコースになっているようである。17:00に上関バス停に着いた。
 17:21発のバスに乗り、石山駅で解散。石山駅発17:52、京都駅着18:06。

自然歩道（石山寺～アルプス登山口～矢筈ヶ岳～笹間ヶ岳～上関）



出発点の石山寺
9:15

南郷洗堰と
笹間ヶ岳
9:51



石井橋から見た
矢筈ヶ岳と笹間ヶ岳
10:25

富川道分岐
11:19



大谷河原への道
11:42

矢筈ヶ岳の登り
13:23



大谷河原付近
の池
14:41

笹間ヶ岳にて
15:45



笹間ヶ岳からの
急坂下り
16:16

上関の
新茂智神社
16:57



名所・旧跡ミニガイド（自然歩道：石山寺～アルプス登山口、）
（周辺の山：矢筈ヶ岳・笹間ヶ岳）

参考資料、／HP、その他より

- ◎ 石山寺：西国三十三ヶ所霊場第十三番札所。本尊：如意輪観音菩薩
良弁僧正ら東大寺造営関係者が天平勝宝元年 **749** に創建した古寺。
田上山(たなかみやま/太神山)の杉、ヒノキが使われたという。
「月見亭」は古くから近江八景の一つ『石山の秋月』として有名。
淀君寄進の本堂、源頼朝建立の多宝塔はともに国宝であり、本堂に『源氏の間』があり、紫式部が石山寺の月の美しさに感動して、ここで源氏物語の『須磨、明石の巻』を書きあげたと伝えられています。
石山寺の名の由来となった、天然記念物の巨大な珪灰石の奇岩があります。
- ◎ 東海自然歩道分岐：関西スタートの北回りコース(本線ルート)と南回りコース(山の辺の道ルート)の分岐点で石山寺の脇、京滋バイパスの西側に道標がある。
2006,11,2 に9名で南回り(山の辺の道ルート)を歩き始めたところです。
- ◎ 南郷洗堰：(瀬田川洗堰) 大戸川から押し流す土砂で、黒津あたりの瀬田川が浅瀬となり琵琶湖増水時は湖岸一帯が水浸しになる。深く掘り下げると宇治から下流は洪水が起り易くなり、また渇水期には琵琶湖の水位が下がりすぎて困るなど多くの難題を抱えていた。

徳川幕府は築(やな)をかけ、朝廷に献上する魚を獲る場所として供御瀬(くごせ)と称し、軍事上の問題から浚渫(しゅんせつ)を許さなかった。川浚えをしたのは **1670～1831** 年に5回ほどしかない。

明治 18、29 年台風の高雨による水害で、明治 **38** 年洗堰の建設が敢行された。このとき湖面がプラス **3,76m** 上昇、多くの被害が出た。浸水日数 **237** 日という。唐橋東詰の夕照山西行寺門前に洪水跡を残す石標があります。

洗堰は、堰長 **180m**、水通し幅 **3.6m**、**32** 門の扉は人力で操作し全閉に **24** 時間かかったそうです。

その後、昭和 **28** 年の洪水を契機に、昭和 **36** 年(**1961**)旧堰下流 **120m** に現在の電動式新堰が完成した。

堰長 **173m**、水通し幅 **10,8m**、扉は **10** 門。自動制御され国土交通省の管理。

◎ アクア琵琶：洗堰東詰北側にあり、琵琶湖と淀川の治水、利水について、大型模型や映像で紹介。園内に旧洗堰の一部も残されている。(入場無料)

◎ 南郷水産センター：県営の養魚場。琵琶湖産の魚類の生態や環境を見ることができる。伝統漁法の紹介、釣り堀、遊園地、川魚料理のレストランもある。(有料)

◎ 夕照の道：瀬田川の東岸の道、瀬田大橋東線県道 29 号で歩行者用にも整備されている。『瀬田の夕照(せきしょう)』からなぞられこの愛称が付けられた。空気の澄んだ日、瀬田川を望むと、水面が輝いて見える。大津町並み百景の一つに数えられています。

◎ 湖南アルプス：大戸川と信楽川に挟まれた太神山、矢筈ヶ岳、笹間ヶ岳、堂山などの山々を称して、湖南アルプスと呼ばれている。

大昔はヒノキの巨木が多くあり緑豊かであったが、藤原宮や平城宮造営、東大寺建立のとき木々が伐り出され、ハゲ山となり、山肌の露出した花崗岩が長年の風化侵食で、その景観がアルプスの森林限界を連想させるようになり、いつの日か湖南アルプスと言われ出した。

主峰は 2 等三角点のある太神山(田上山/たなかみやま)600m(△599, 7m)です。

◎ 新茂智神社：祭神は稲依別命(日本武尊の子)、少彦名命、大己貴神で、761 年勅をもって前二神を奉じ「新餅大明神」と号し、建部若宮と称したと伝えています。神文は近江国一宮の建部大社(祭神：日本武尊、大己貴三言)と同じ三本杉です。

笹間ヶ岳の裏登山口(関津側)になっています。